

News Letter

2019
Summer issue

令和元年8月5日発行

*Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences
Division of Sociology of Physical Education and Sport*



慶應義塾大学 日吉キャンパスのポプラ並木

写真出所：慶應義塾大学日吉キャンパスHP <https://www.keio.ac.jp/ja/about/campus/hiyoshi.html>

日本体育学会 体育社会学専門領域

事務局：〒270-1695
千葉県印西市平賀学園台 1-1
順天堂大学スポーツ健康科学部
黒須充研究室内
TEL: 0476-98-1001 (代表)
E-mail: mkurosu@juntendo.ac.jp

< 目 次 >

2019 年度専門領域総会案内	1
2019 年度専門領域研究会案内	1
第 70 回大会スケジュール	3
一般・ポスター発表プログラム	3
発表の形式について	9
シンポジウム	9
「年報 体育社会学」原稿募集	10
事務局より	10

2019年度 専門領域総会のご案内

日本体育学会第70回大会の2日目に専門領域総会を下記の通り開催します。

1. 日時：2019年9月11日（水） 12:45～13:45
2. 会場：慶應義塾大学日吉キャンパス 第4校舎B棟J24教室

2019年度 専門領域研究会のご案内

日本体育学会第70回大会に先んじて、専門領域研究会を下記の通り開催します。

1. テーマ：制度としての「体育」の社会的変容 ー対象を見失う「体育社会学」の転機ー
2. 目的：(一社)日本体育学会体育社会学専門領域の研究の恒常的な振り返りと検証、さらに今後の研究の方向性を考究し、体育社会学専門領域会員相互の研究交流を促進することを目的として開催する。
3. 日時：2019年9月9日（月）14:00～17:00（18時頃から懇親会を予定しております。）
4. 会場：慶應義塾大学日吉キャンパス 独立館D307教室
5. 趣旨： 2016年度から体育社会学専門領域のプレセッションでは、「体育社会学」という研究領域の固有性を再検討するために、「教育」の観点から、「体育社会学」が「誰」のために「何を」研究してきたのかについて検討を重ねてきた。「学校教育」や「社会教育」という教育作用・教育事象としての「体育」や、その周辺に広がる社会的事象としての「体育」について、社会学的研究が果たしてきた成果と課題についてそれぞれの視点からのご報告をいただきながらの検討であった。

ところで、会員にもアンケート調査の依頼があったように、現在、日本体育学会の名称変更に関わる検討が進められている。そこでは、従来の体育学会で広く使用されてきた「体育」という用語、ないし概念の扱いが、一つの論点となっていることは広く知られているところである。これは、「スポーツ」という用語、ないし概念との関係からの検討であるとともに、「体育」という用語、ないし概念の再検討という側面も含むものであると思われる。教育との関係で体育という概念を理解してきた体育社会学研究領域において、固有の研究対象であるはずの「体育」が揺らぎ始めているという状況でもあるといえよう。

「体育」という用語、ないし概念は、「身体とスポーツを対象とした教育」「近代社会において制度化された教育」「体育という教育を支える研究と人材養成システム」という3つの側面から、特に体育社会学の領域では議論されてきたのではないかと思われる。しかしながら、特に

高度情報化や国際化が進む現代においては、そのどの側面にも大きな変化が現れており、その理解の仕方自体が、同じように揺らぎ始めている。そこで、本年度の研究会では、これまでの検討も踏まえつつ、そもそもの「体育」という用語、ないし概念の揺らぎについて検討することを通して、「体育社会学」の存在意義を見つめ直しつつ、「体育社会学」は「誰」のために、「何」を目的として営まれる研究であるのかということについて議論を交わしてみたい。

6. 内容：【登壇者】

- ・原 祐一（岡山大学） 「第四次産業革命と技術革新の中の学校体育の揺らぎ」
- ・高井 昌史（東洋大学） 「メディアから捉えた学校体育のゆらぎ」
- ・市井 吉興（立命館大学） 「新たなスポーツの潮流と学校体育のゆらぎ」

【司会】

- ・高橋 義雄（筑波大学）
- ・松田 恵示（東京学芸大学）

7. 参加費：研究会 1,000 円、懇親会費 5,000 円

8. 参加申込方法：以下の内容を下記アドレスまでお知らせください。

- ① 研究会（参加します・参加しません）
- ② 懇親会（参加します・参加しません）
- ③ 専門領域（会員・非会員）
- ④ 氏名
- ⑤ 所属
- ⑥ メールアドレス

E-mail: mkurosu@juntendo.ac.jp （事務局長 黒須 宛）

9. 参加受付〆切日：2019年8月30日（金）〆切

10. 問い合わせ先：

専門領域研究会に関してご不明な点がございましたら、下記事務局までご連絡ください。

体育社会学専門領域

事務局長 黒須 充 E-mail: mkurosu@juntendo.ac.jp

事務局次長 工藤 康宏 E-mail: ykudou@juntendo.ac.jp

第70回大会スケジュール

1. 大会日程：2019年9月10日（火）～12日（木）

2. 開催会場：慶應義塾大学日吉キャンパス

3. 体育社会学専門領域プログラム：

< 9月10日（火）（1日目） >

10:45～11:40 口頭発表①、②（第4校舎B棟J24教室、J29教室）

12:00～13:00 評議員会（独立館D408教室）

< 9月11日（水）（2日目） >

9:00～12:00 シンポジウム（第4校舎B棟J24教室）

12:45～13:45 総会（第4校舎B棟J24教室）

13:50～14:45 口頭発表③、④（第4校舎B棟J24教室、J29教室）

13:50～14:50 ポスター発表（ポスター会場3：独立館D201教室）

< 9月12日（木）（3日目） >

9:00～10:25 口頭発表⑤、⑥、⑦（第4校舎B棟J24教室、J29教室、39教室）

10:30～11:55 口頭発表⑧、⑨、⑩（第4校舎B棟J24教室、J29教室、39教室）

13:00～13:55 口頭発表⑪、⑫（第4校舎B棟J24教室、J29教室）

13:00～14:25 口頭発表⑬（第4校舎B棟39教室）

14:00～14:55 口頭発表⑭、⑮（第4校舎B棟J24教室、J29教室）

4. 一般発表・ポスター発表プログラム

【9月10日（火）】

口頭発表①

会場：第4校舎B棟J24教室

座長：依田 充代（日本体育大学）

10:45～ 三谷 舜（立命館大学大学院社会学研究科）

「軟式ボールの意味変容に関する考察：スポーツを用具の観点から把握する試み」

11:15～ 柴田 遼太（東京学芸大学大学院）

「SNSが持つ社会的現実の構成作用：スポーツにおける意図的ルール違反に着目して」

口頭発表②

会場：第4校舎B棟J29教室

座長：高尾 将幸（東海大学）

10:45～ 片桐 夏海（岡山大学大学院）

「スポーツ指導者の感情労働とコーチング：実業団と大学柔道指導者の語りに着目して」

11:15～ 戸田 季呂（東京学芸大学大学院）

「「筋トレ」現象に関する一考察：筋トレによって得られる快樂に焦点を当てて」

【9月11日（水）】

口頭発表③

会場：第4校舎B棟J24教室

座長：山本 理人（北海道教育大学岩見沢校）

13:50～ 原 祐一（岡山大学）

「教育支援センターにおけるスポーツ指導の実態調査Ⅰ：教育支援センターの施設・体制・設備に着目して」

14:20～ 松田 恵示（東京学芸大学）

「教育支援センターにおけるスポーツ指導の実態調査Ⅱ：指導員の意識に着目して」

口頭発表④

会場：第4校舎B棟J29教室

座長：水上 博司（日本大学）

13:50～ 大隈 節子（三重大学）

「バレーボールの「間合い」に関する一考察：連係プレーへの着目を通して」

14:20～ 中村 祐太郎（仙台大学）

「各ライフステージにおけるソフトバレーボールの取り組みに関する研究：ソフトバレーボールを行う目的ならびに実感した効果に着目して」

ポスター発表

会場：ポスター会場3：独立館D201 教室

座長：河野 洋（福山平成大学）

- 13:50～ 中村 宏美（独立行政法人日本スポーツ振興センター）
「子どものフィジカルリテラシー習得に関する家庭環境調査：インサイト分析手法を活用した地域介入のありかたのための一考察」
- 13:50～ 常行 泰子（高知大学）
「地方創生とアクティブ・エイジングを目指す運動・スポーツの指導者像」
- 13:50～ 加藤 敏弘（茨城大学人文社会科学部）
「少年団—中学校運動部活動—地方競技団体の連携システム構築：バスケットボールクラブを核にして」
- 13:50～ 中嶋 克成（徳山大学/広島大学教育学研究科）
「武道による非言語コミュニケーションに関する一考察」
- 13:50～ Wang Fubaihui (China Institute of Sport Science)
「Parenting Style and Family class : A New Explanation on the difference of Adolescent Physical Activity in China」

【9月12日（木）】

口頭発表⑤

会場：第4校舎B棟J24 教室

座長：工藤 保子（大東文化大学）

- 9:00～ 上代 圭子（東京国際大学）
「大型公共スポーツ施設における付加価値施設・設備の創出」
- 9:30～ 東明 有美（関東学園大学）
「自治体のスポーツ政策に基づくスポーツチームの形成過程に関する研究：女子スポーツチームに着目して」
- 10:00～ 下窪 拓也（東北大学）
「スポーツクラブ内での接触が日本人と在日外国人の関係性に与える影響：スポーツクラブ内での集団間接触の性質に関する計量分析」

口頭発表⑥

会場：第4校舎B棟J29教室

座長：下竹 亮志（筑波大学）

9:00～ 伊藤 功二（兵庫教育大学大学院）

「生徒から見た運動部活動の理想とその学習成果：中学生を対象として」

9:30～ 中澤 篤史（早稲田大学）

「全国中学校体育大会の拡大過程と財務状況に関する分析」

10:00～ 村本 宗太郎（立教大学大学院）

「学校運動部活動での体罰において部員が被る負担に関する基礎的研究：2012年前橋地方裁判所判決に着目して」

口頭発表⑦

会場：第4校舎B棟39教室

座長：高橋 義雄（筑波大学）

9:30～ 新井野 洋一（愛知大学地域政策学部）

「大学においてUNIVAS(大学スポーツ協会)をどのように教育するか」

10:00～ 森谷 航（桐蔭横浜大学大学院）

「大学フットサルの推進意義に関する一考察：競技環境の側面から」

口頭発表⑧

会場：第4校舎B棟J24教室

座長：海老原 修（横浜国立大学）

10:30～ 清水 恵美（公益財団法人笹川スポーツ財団）

「小学校における投能力向上の取り組みに関する研究Ⅰ：投能力向上指導はジェンダーバイアス打開できるのか」

11:00～ 宮本 幸子（公益財団法人笹川スポーツ財団）

「小学校における投能力向上の取り組みに関する研究Ⅱ：家庭環境と学校の取組に着目して」

11:30～ 清水 紀宏（筑波大学）

「子どもの体力・スポーツ格差に関する研究(1)」

口頭発表⑨

会場： 第4校舎B棟J29教室

座長：石坂 友司（奈良女子大学）

10:30～ 刑部 幸優多（東京学芸大学大学院）

「入院時のスポーツ経験と VR 活用に関する社会学的一考察：スポーツに対するイメージの変容に着目して」

11:00～ 高橋 真央（東京学芸大学）

「体育授業における AI の活用に関する基礎的研究」

11:30～ 長澤 瑞木（東京学芸大学大学院）

「「運動習慣」に関するポジティブ言説の社会的構成に関する研究：ウェアラブルデバイスの事例から」

口頭発表⑩

会場：第4校舎B棟39教室

座長：有山 篤利（兵庫教育大学）

10:30～ 高平 健司（筑波大学大学院）

「嘉納柔道修行とその「道」：「精力善用自他共栄」との関係を「体用」の関係としての西田哲学から考察する：修行の実践による人格的な完成へと向かう変化のプロセスを嘉納、三宅、西田の言説から比較考察する」

11:00～ 北村 尚浩（鹿屋体育大学）

「武道の授業で日本の伝統文化をどう教えるのか：教員の自由記述データの計量的分析」

11:30～ 曾我部 晋哉（甲南大学）

「オーストラリアにおける柔道実施児童の保護者に対するイメージ調査」

口頭発表⑪

会場：第4校舎B棟J24教室

座長：奥田 睦子（京都産業大学）

13:00～ 新多 泰典（株式会社 スポーツビジネス研究所）

「東京オリンピック・パラリンピックに向けた地域スポーツクラブの取組みに関して：都内地域スポーツクラブに着目して」

13:30～ 橋本 剛幸（近畿大学 経営学部）

「和歌山県岩出市スポーツ推進委員会の新たなる取り組み：学生スポーツ推進委員の今後の課題と方向性」

口頭発表⑫

会場：第4校舎B棟J29教室

座長：原 祐一（岡山大学）

13:00～ 清水 一巳（千葉敬愛短期大学）

「自然遊びの中での身体感覚の変容について：暗闇の中での物語との関わりから」

13:30～ 赤岩 亮輔（東京学芸大学）

「サドベリースクールにおけるスポーツ活動の可能性に関する社会学的一考察：サドベリースクールでのインタビュー調査を通して」

口頭発表⑬

会場：第4校舎B棟39教室

座長：北村 尚浩（鹿屋体育大学）

13:00～ 師子鹿 航（早稲田大学大学院スポーツ科学研究科）

「学校運動部活動における外部化に関する研究」

13:30～ 鈴木 あゆみ（横浜国立大学大学院）

「運動部活動ガイドライン」下における生徒・顧問の意識調査」

14:00～ 日高 裕介（早稲田大学大学院スポーツ科学研究科）

「わが国の高等学校スポーツ強豪校における「教育観」の功罪に関する研究」

口頭発表⑭

会場：第4校舎B棟J24教室

座長：吉田 毅（桐蔭横浜大学）

14:00～ 田中 亮多（岡山大学大学院）

「災害ボランティア参加者のスポーツ経験とエージェンシー」

14:30～ 工藤 保子（大東文化大学）

「スポーツボランティア実施者の現状を概観する：笹川スポーツ財団のインターネット調査（1万人）の年代別に着目して」

口頭発表⑮

会場：第4校舎B棟J29教室

座長：千葉 直樹（中京大学）

14:00～ 河野 洋（福山平成大学福祉健康学部）

「ラグビーの「日本代表」をめぐるインターネットのコメント分析」

14:30～ 笹生 心太（東京女子体育大学）

「スポーツが刷り込む「認識的ナショナリズム」：サッカー専門誌に見られる「日本人らしさ」言説に着目して」

5. 一般発表・ポスター発表の形式について

- ・今大会における本領域の発表数は、口頭発表 36 演題、ポスター発表 5 演題です。
- ・口頭発表は1 演題あたり 25 分間（発表 15 分間、質疑応答 10 分間）です。
- ・ポスター発表では座長の進行により、各自 10 分間のプレゼンテーションの後、設定時間内でのフリーディスカッションを行います。
- ・詳細につきましては第 70 回大会プログラムをご参照ください。

6. 専門領域企画シンポジウム

日時：2019年9月11日（水）9:00～12:00

会場：第4校舎B棟J24教室

テーマ：学校教育におけるオリンピック・パラリンピックレガシーを問う

内容：【演者】

- ・中塚 義実（筑波大学附属高等学校）「オリンピズムを教育にー2020以降に何を残すかー」
- ・小澤 直（公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター）
「公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター（パラサポ）の取組み」
- ・佐藤 豊（桐蔭横浜大学）
「学校体育におけるオリンピック・パラリンピック教育の充実に向けて」
- ・渡 正（順天堂大学）「パラリンピック教育の課題と可能性」
- ・石坂 友司（奈良女子大学）「オリンピック教育は日本社会に何をもたらすのか」

【座長】

- ・吉田 毅（桐蔭横浜大学）
- ・工藤 保子（大東文化大学）

趣旨： 東京 2020 オリンピック・パラリンピック（オリ・パラ）の開催を契機として、さまざまなレガシーの創造が模索されている。学校教育との関わりから言えば、オリ・パラ教育が多様なアクターによって推し進められている。

例えば、東京都教育委員会は、育成すべき人間像、教育のレガシーを定め、基本的枠組みとして4つのテーマと、4つのアクションを組み合わせた多様な取り組みから、重点的に育成すべき5つの資質を掲げ、教育を展開している。

一方で、ほぼ全ての幼稚園、学校を網羅することもあり、多様な価値観を含み込むオリ・パラについて、一方的、かつ固定化された価値の押しつけにつながるのではないかという懸念もある。また、そのような教育が行われる社会的意義については十分議論されているとはいいがたい。そこで、本シンポジウムでは、オリ・パラ教育の現状について実践例を検討しながら、その社会的意義や課題、向かうべき方向性について体育社会学の観点から議論したい。

「年報体育社会学」の原稿募集について

本専門領域の新ジャーナル「年報体育社会学」の投稿論文の原稿受付には締切（第2号以降）はございません。原稿は受付確認が出来次第、査読に回して採択されれば、公開の手続きを進めて J-Stage へ早期公開をします。

なお、投稿規定および投稿の手引き等は、体育社会学専門領域 web サイトよりご確認ください。会員の皆様の多くの投稿をお待ちしております。

「年報 体育社会学」編集委員会

事務局より

1. 会員動向：体育社会学専門領域の会員数は、2019年7月30日現在376名です。
2. 会員情報変更：日本体育学会会員の名簿管理は学会本部が行っております。勤務先の移動、住所・所属などの変更があった場合は、すみやかに「会員情報変更届」（『体育学研究』に添付）を学会本部事務局に FAX または封書で送付してください。学会本部とともに専門領域事務局にもメールでご連絡いただくと助かります。
3. 会則および諸規定等の改訂版について：諸規定等の改訂版は、随時専門領域ホームページに掲載していますので、ご確認ください。

事務局メールアドレス 黒須：mkurosu@juntendo.ac.jp
工藤：ykudou@juntendo.ac.jp
渡：t-watari@juntendo.ac.jp

あとがき

この度、体育社会学専門領域の広報委員長を仰せつかりました、北海道教育大学札幌校の石澤と申します。よろしくお願ひ致します。広報委員会は和歌山大学の彦次 佳 先生、そして、明治大学の高峰 修 先生との3人体制で業務を行っていくこととなりました。会員の皆さま方におかれましては、諸々のご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

さて、令和に入っただの最初の、そして、新体制になっただの初めてのニュースレターをお届ひ致します。ニュースレター中では詳細をご案内しております慶應義塾大学における第70回大会が終わりますと、いよいよわが国は「ゴールデンスポーツイヤーズ」に突入し、今年のだラグビーワールドカップ、来年の東京オリンピック・パラリンピック、そして、再来年のワールドマスターズゲームズと、3年連続でメガ・スポーツイベントが開催されることとなります。私事ですが、RWCは9月22日のイングランドVSトンガ戦を大枚をはたいて購入しました。またオリ・パラに関しては、幸運なことに自宅がある札幌で行われるサッカーの予選が当選しました！ かくなる上は、再来年に向けて体を造り、2大会連続でWMGに、「アスリート」としてエントリーをしたいと考えております(笑)

石澤 伸弘